

HCMC Chronicle

ホーチミン日本人学校

川上 裕明

80 周年

今日9月2日はベトナムの建国記念日です。

今年は建国 80 年という節目の年でもあり、街のあちこちに看板が出ていたり、イベントの開催があったりします。



日本では、ニュース等で「戦後 80 年」という言葉も聞かれていますね。

ベトナムの「建国 80 年」は、1945 年に日本の敗戦によりインドシナが日本軍の占領から解放され、この地に「ベトナム民主共和国」建国が宣言されてから80年がたったことを意味します。

ベトナムの歴史を簡単に振り返ってみます。

紀元前 2880 年にフン・ヴォン王によるヴァンラン国が樹立されたのを最初に、ベトナムでは様々な王朝が国を作ったり、隣の中国に支配されたり、元寇をみごと撃退したりしながら、1802 年に中部のフエを都とするグエン朝によってベトナムの南北が統一されました。1804 年には、清朝により「越南(ベトナム)」の国名が与えられています。

一方、アジアに貿易地の拡大を求めたヨーロッパ諸国は、ベトナムにも進出しました。1858 年にはフランス人宣教師が迫害されたとの口実でナポレオン 3 世がベトナムに派兵し、フランスがベトナム全域を支配します。1887 年にはフランス領インドシナ連邦が成立しました。

第二次世界大戦が始まるとフランスはドイツに敗れ、インドシナの植民地支配は日本へと移行しましたが、1945 年に日本はポツダム宣言を受け入れ撤収します。ここでベトナムは独立を試み、8月16日にベトナム独立同盟会がハノイを制圧、9月2日ホー・チ・ミンがハノイでベトナム民主共和国の建国を宣言しました。このとき、ポツダム宣言によるとベトナムは北緯 17 度以北が中国の植民地(ベトナム民主共和国)で、以南はフランス植民地(ベトナム共和国)となっていました。

北ベトナム軍は、勢力拡大をもくろんで北進してきたフランス軍を 1954 年ディエンビエンフーの戦いで撤退させ、インドシナ戦争に勝利します。しかし、アメリカは敵対国ソ連の近隣国であるベトナムが社会主義国家になることを恐れ、1965 年に北ベトナムへ空爆を行いベトナム戦争が始まりました。アメリカ軍の激しい空爆や北ベトナム軍のゲリラ戦は続き、南北ベトナムや各国兵士に多くの犠牲者を出したものの、アメリカ軍は戦況を打開できず北ベトナムから撤退、1975 年4月30日に北ベトナム軍がサイゴン(現ホーチミンシティ)を占領し、戦争は北ベトナムの勝利で終わりました。現在の国名「ベトナム社会主義共和国」が宣言されたのは1976年のことです。

さて、1945年9月2日のハノイにおけるホー・チ・ミンの独立宣言の中には、次のような言葉があります。(訳文はクリエイティブ・コモンズによる)

日本のファシストがインドシナを侵略し、フランス帝国主義者どもは跪いて日本にわが国を明け渡した。そのときから、わが民族はフランスと日本という二重の枷をかけられた。そのときから、わが民族は、日増しに困窮し、貧困にあえぎた。その結果、ついに昨年末から今年の初め、クアンチから北部にかけて、200万人の同胞が餓死した。



テレビでハノイの式典の様子が報じられました

1940年の秋からわが国は日本の領土となり、もはやフランスの領土ではなかった。日本が連合国に降伏したとき、全国のわが民族は立ち上がり政権を奪取して、ベトナム民主共和国を築いた。

実際には、わが民族は、フランスの手からではなく日本の手からベトナム国を取り戻した。フランスは逃げ、日本は降伏し、バオダイ帝は退位した。

日本人には胸が痛くなるような言葉が並んでいます。

独立宣言にある「200万人の同胞が餓死した。」とは1944年の秋からのできごとを指しており、餓死者の数は戦後の日本の調査では40万人であったなど諸説あります。しかし、いずれにしても日本の占領が終わった直後に多くの人が亡くなり、さらにその言葉がこの国の独立宣言の中にある(学校でも学ぶ)ことは覚えておかななくてはなりません。

ベトナムは、8月30日(土)から9月2日(火)の建国記念日まで4連休です。ホーチミン日本人学校では、以前に中学校社会科教諭として活躍した教頭先生が、8月29日(金)の職員打ち合わせで独立宣言に関わる話をしてくれました。

「親日国」と言われるベトナム。ホーチミン市内には日本製のバイクや車があふれ、日本のお店や日本製品、音楽やマンガなどの日本文化も多く見かけます。今日行ったシネコンでは、6つのシ



ベトナムのVIN FAST 社製 VF9 の特装車です

アターのうち2つが日本映画でした(「鬼滅」と「しんちゃん」)。私は今年4月の来越以来ベトナムの人に嫌な思いをしたことはなく、いつも明るくてやさしくてまじめな人ばかりだと感じています。(歩道でバイクに足を踏まれたときを除く)

そんなベトナムがこれまでに歩んできた歴史に思いをはせ、今日を過ごしたいと思います。